報道関係者各位

2025 年 3 月 11 日
株式会社 聚楽

【創業 101 周年の聚楽】

“須田町食堂”創業ヒストリー第 5 弾を発刊

大型リゾートホテルの始まりと列車食堂参入

聚楽グループ

株式会社聚楽（本社：東京都千代田区、取締役社長：加藤 治）が発刊している情報誌「ことのは」第 5 弾で高度経済成長期の“再生と最盛”をまとめましたので、聚楽グループの各ホテルやレストランで順次無料配布します。WEB でも閲覧可能です。
《https://www.hotel-juraku.co.jp/info/kotonoha/：「ことのは」Vol.20～Vol.24》

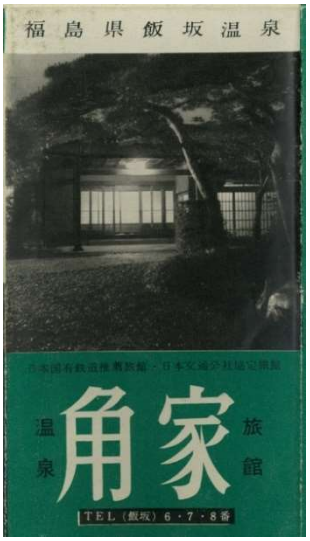
【前号までのあらすじ】
加藤清二郎は学業優秀も進学はせず、関東大震災を契機と捉え 1924 年 3 月 10 日東京・神田に簡易洋食”須田町食堂”開業。創業 10 年の節目となる 1934 年「聚楽」創設。官公庁、企業、学校の専用食堂も運営し最大 89 店舗まで事業を拡大するも 1945 年 8 月 15 日の残存店はわずかに 5 店。激動の経済混乱期、1947 年発令の飲食営業緊急措置令等を乗り越え、事業を復活させる。1962 年水上ホテル聚楽をリニューアルし大型リゾートホテル事業を拡大していく。

取材及び冊子郵送ご希望の方は㈱聚楽（じゅらく）：堀越
info@hotel-juraku.co.jp までお問い合わせください。

◆思いやりからの飯坂進出
1961(昭和 36)年秋、知人でもある福島の酒造会社社長より「飯坂温泉に角屋（かどや）という大きな旅館があります。名門と言われていますが再建の見込みは全くありません。加藤さん、これを買っていただけませんか？」。経営もうまくいっていない様子で「酒屋が旅館を持っていても猫に小判です。ぜひ聚楽さんで引き受けていただけませんか？」

◆勝ってのち戦う

加藤は暇を見つけては各地の観光地を視察しており飯坂温泉にも度々訪れていました。東北の冬はオフシーズンで人々は外に出たがらないが、磐梯吾妻スカイラインが開通してからは観光客が増え続けており、マイナスよりプラスの方が多いと判断。「わかりました、引き受けましょう」と３分で決断します。



写真（左）：温泉旅館「角屋」のパンフレット　（右）：ホテル聚楽のパンフレット

◆敗軍の将に失礼があってはならぬ

1962（昭和 37）年４月８日、飯坂ホテル聚楽開業。前オーナーに対する気配りから、晴れの門出を祝うセレモニーは行いませんでした。

◆大規模リニューアル工事

５年後の 1967（昭和 42）年８月 28 日「ホテル聚楽は地元の役に立つホテルにしたいと思います。同業者の方々にも迷惑をかけず、共存共栄を図っていきたいと思います」と盛大な祝賀披露パーティーを行い新生飯坂ホテル聚楽がスタートしました。

写真：８月 28 日 飯坂ホテル聚楽と加藤清二郎

◆列車食堂営業への道のり

【1959（昭和 34）年７月、国鉄に請願書を提出】

『今秋の列車ダイヤ改正を機会に、上越線の急行「佐渡」「越路」に食堂車の連結が内定の旨を新聞により承知しました。つきましては、是非食堂車の経営の御許可を得たくここに請願します。ー省略ー』残念ながら、郷里新潟と上野を結ぶ上越線への思いは認可されませんでした。

【1962（昭和 37）年３月、国鉄に“再度”請願書を提出】

『今度長岡、新潟間の電化を契機に上越線に特別急行列車が運転せられ、食堂車を連結することが内定せられた旨新聞紙の報道により知りました。つきましては、是非共食堂車経営の御許可を得たくここに請願いたします。ー中略ー

多年にわたり列車食堂の経営を熱望し昭和 34 年７月上越線現在の急行列車に対し、列車食堂の経営を希望し請願して参りましたが、其の機会を得ず今日に至って居ります。幸に、御許可を頂きました暁は列車食堂の特殊性を十分に認識し多年の経験と会社組織を総動員して誠心誠意模範的

の経営を行い御当局の御信頼に添いたいと存じます。』文章だけにとどまらず、上野駅聚楽、新潟駅聚楽の店内写真に新装オープンする水上ホテル聚楽のパンフレットを添えました。
そして、1962(昭和 37)年 6 月 9 日、ようやく列車食堂営業の許可がおりることになったのです。

◆伊東ホテル聚楽の始まり

終戦後の 1946（昭和 21）年、浅草で舞台道具などの演出を手掛ける株式会社「かにや」のオーナーより、伊東温泉に所有営業している高級旅館「かにや旅館」運営の話が舞い込んできました。かにやオーナーが浅草の会社復興に専念するため 8 年の期限付きで、賃貸契約を提示してきたのです。賃料は売り上げに応じた歩合制で翌 1947（昭和 22）年から「伊東かにや聚楽」として当社が運営することとなりました。

◆「かにやホテル」オーナーが巨費を投じ「ニューかにやホテル」を建設

1966 年（昭和 41）かにや旅館は巨費を投じ「ニューかにやホテル」を建設します。しかしその 2 年後の 1968（昭和 43）年 9 月、聚楽が取得することとなります。明確な理由は不明ですが、残存資料から前オーナーに不幸があったものと推測されます。同年 11 月に「伊東ホテル聚楽」へ屋号変更を行います。
社内報には館内設備と人事の掲載のみで、開業披露等の記述は見当たりませんでした。

株式会社 聚楽（じゅらく）

創業者：加藤 清二郎（せいじろう）
（1898 年 4 月 8 日～1982 年 9 月 24 日）

■じゅらく情報誌「ことのは」設置場所

【宮城県】
■御酒印船　仙台店

【福島県】
■飯坂ホテルジュラク

【新潟県】
■ジュラクステイ新潟
■びいどろ CoCoLo 新潟店
■弥彦山ロープウェイ
■亜麺坊 CoCoLo 新潟店
■弥彦桜井郷温泉 さくらの湯

【東京都】
■お茶の水ホテルジュラク
■浅草聚楽
■御酒印船　新宿店
■串揚げじゅらく上野店・新橋店・アメ横店
■レストランじゅらく上野駅前店
■須田町食堂 秋葉原 UDX 店
■酒亭じゅらく上野店・お茶の水店
■明神そば きやり　神田明神前店

【群馬県】
■みなかみホテルジュラク
■万座ホテルジュラク

【静岡県】
■伊東ホテルジュラク

【兵庫県】
■神戸ホテルジュラク

■会社概要

株式会社聚楽

1924（大正 13）年 3 月関東大震災の爪あと残る東京神田須田町の一角に簡易洋食「須田町(すだちょう)食堂」のノレンを掲げたのが始まり。1928（昭和 3）年開業「須田町食堂上野第 2 営業所」は「レストランじゅらく上野駅前店」として今も営業中。1959（昭和 34）年上野・西郷像下に伝説の巨大レストラン「聚楽台」オープン。1962（昭和 37）年、上越線列車食堂営業への参入し上越新幹線開通後も車内販売事業（2011 年撤退）を手掛ける。現在は都内を中心にレスラン 36、リゾート 4・ビジネス 3 のホテルを運営している。2025 年 3 月 10 日　創業 101 周年を迎えた。

【創業】1924（大正 13）年 3 月 10 日
【資本金】1 億円
【代表】取締役社長　加藤 治
【住所】東京都千代田区神田駿河台 3 丁目 4 番地龍名館本店ビル 9 階南
【従業員】正社員 570 名／パートタイマー460 名（2025 年 1 月時点）
【事業内容】都市ホテル・リゾートホテル・各種レストラン
【URL】https://juraku.com/

＜本件に関する報道関係からのお問い合わせ先＞
株式会社 聚楽（じゅらく）
広報　担当：堀越　info@hotel-juraku.co.jp